

歳旦

仙臺獅子門  
采非庵社中



△5  
6673  
32





文通

東家子  
其心むく



換字や

中川上物

筆非菴  
芳角

其の書

明和四丁亥

歳旦

二丁ハ筆非菴の苗字  
ナリ

芳泉	角序	菊丸	仙角	麦里	風州	一奇	解之
寺つ水を松と嬉しや門かきり	回作や靴魚麻も是てり	生おのハも字や雪も智乃給	大福江持まに川や初夜	沖もと船帳よ川共やおく	梅一子人嘆きす船や月日	ならや歌の尾とく	



水降や雪くく 笑ふ麦吐く 芥舟  
 月影のこけ岩戸や 初こよみ 雨草  
 とし 桐や 積ふ 解のかくし 芳玉  
 うくふや 帯とく ありす 高き 栂 栂里  
 之身や 花も 盤判ふ ありか み 岩 柳  
 葉くく 此 書き ありや 百 編 寄 料 芳 年  
 右 川 賣 や ま ち の 市 の 花 ひ ぶ 梅 香  
 若 水 よ 笑 ひ 入 居 や 早 乃 新 綿 長  
 花 屋 く 笑 初 も ち 一 福 寄 葉 粉 花  
 右 川 賣 の 芥 子 よ 焼 一 子 安 繩 松 喰  
 初 鷲 や こ ち く 起 寄 車 升 戸 鼻 竹  
 右 坂 弓 や 兄 入 来 る よ 又 位 厨 丸 丸

初 鷲 や 湯 屋 車 も 洗 水 時 雁 水  
 此 川 流 り せ くの 敷 や 飾 井 松 泉  
 花 屋 く 目 と 話 け り や 右 川 曆 松 汀  
 雪 の あり なく や 右 湯 花 の 雲 松 久  
 魚 あり 山 も 笑 ふ や かく み 候 和 持  
 吹くく 松 も ち 更 や う こと 初 笛 角  
 年 西 や 右 懐 女 里 の 去 大 根 赤 智  
 此 よ 終 ず 初 日 け り け や 長 袴 栂 庭  
 右 初 へ 飛 っ 湯 屋 け り あり 栂 山  
 井 筒 く こと 初 日 や こと 窓 倫 知  
 大 黒 の 解 け せ ぐ や 飾 弓 く 泉 壺  
 右 川 新 や ま ち 一 川 側 へ 餅 の 言 梅 仙



若水や背戸の流もふを門 玉泉  
若水や表乃 鶴の森入ふを 田氣  
と川をや松も枝つく庭の央 中島  
室の任あけもや 松離 中島  
之節やを向一系乃人ころ 芳樹  
と一松やおも白くと 公胤 胤十  
帆へけ舟はくや川原の松葉 掉音  
茶屋や表の火煙も 殿つみ 赤木  
里の根の遠ふ深山や 門飾 去脚  
思ふくなくおの 明より 鏡解 長江  
後ろくや雪も折く 稻の 胤東

量るや月くまよ 晴ふくす 雨夕 武門  
然しおやふ代の地乃 小松系 赤香  
ふ金の封乃 切おや 後赤系 江南  
納豆よ 出代乃 けさの 難煮外 穂香

虫真

清のふもふ 結て 糸乃 柳の志 赤角  
出代や 青のふ 詠乃 大海日 胤東  
墨おとの 花よ 仕わけ 徳穂外 表里  
お梅も おふく 本池の 柳緑外 胤十  
雪とけて 雪車の 幅る 山路外 胤十  
きは 熊の 几 松の 房や 表の 志 掉音  
苗代よ あま 舟や 幽の 名 かつ 舟 赤木



世木のぬき起るるす柳のむ 春遊  
かまはるはうちまはり揚ひたり 長江  
一日の任より二日やいとく 芳樹  
糸きねく子まのたふや 几中 松竹  
ゆふくのけり、瀬田のおほる月 松竹  
あまや一のぬふくふま 田原  
山吹や木さる路へ下り 西条 松竹  
船藤よりあはれくして 蕨のふ 梅仙  
さほ船の筆まて 山やほり 泉壺  
まゐるや涼のなま 木さる 松竹  
うぐいすや身積のたもと 二挺立 松竹  
種と舟やまゝくびきまをひく 松竹

海棠のけりおもや 藤の夏 松竹  
懐乃 石のゆき 松竹 松竹  
おあて 松竹 松竹 松竹  
川原や 松竹 松竹 松竹  
陽をの果もあけり 松竹 松竹  
藤くも 松竹 松竹 松竹  
捨むの 松竹 松竹 松竹  
足跡よ 松竹 松竹 松竹  
けくくや 松竹 松竹 松竹  
古所よ 松竹 松竹 松竹  
其のや 松竹 松竹 松竹  
松竹の 松竹 松竹 松竹



一こつと燈籠の灯乃もく紫梅香  
之より柳や里より白の空 芳泉  
彩は波の連やもく水て懸月 枕里  
去れ月や折んて来ても子亮柳 岩柳  
難波江の漣もくけり芦の角 芳玉  
多野の中への中へ一回りかふる茶  
浄法寺よ動ぬむに横るも 六舟  
さくさくすまふぬむに千葉小 以州  
さ宿曜の白粉もくや去乃雨 一翁  
せくせく柳よ空のつくもたの 三下凡  
あ結の香もくむに柳げ 仙角  
あ柳や去も深井のくぬ釣瓶 芳泉

おぼろおぼろ月や磨ておぼろ 角序

火と浮きい己う横乃あふら 龍香  
そ乃つれれくくや之の枝 江島  
懸くの写をよそふやき自りぬ 藤香  
もんほや日も乃菜よちつら る夕  
春柳の氷凍して揺ひたり 雷堂  
磯より古いつも水や去の雪 碧女  
影へ来く振をえきくは慈くか 藤文  
来るや三川ふあす冬に雪 大芝  
おそくはや東風は林のくくひ色 浅藤  
飛徒て輪とふれせくめう柳 葉里



仙臺三卷内

文化

